



吉田 敏郎 議員

学校プールに関して 町の考えを問う

避難所運営は、多岐にわたる大量の業務が発生する。

問 地域防災計画の改訂は。

答 新庁舎が完成し、役場内部の機構改革を行うので、平成32年に改訂を考えている。

問 実際に発災した場合、職員・自治会は、どのような区分で対応する予定か。

答 全員が登庁するのは難しい。避難所に配置できる職員は限られることを考えると、自主防災会、避難者自身にもある程度の役割を担っていただきたい。今年度中に検証結果を加え、マニュアルを定めていきたい。

問 吉田島高校で行った避難所訓練に対して、防災部長会議での意見を地域防災計画に反映する考えは。

答 地域防災計画に生かせる部分を網羅しながら検討する。

問 地震と水害に対して、町はどのような対応の違いを示していくのか。

答 違いを明確にしつつ、今度の計画に反映していきたいと考えている。

問 学校プールに関して町の考えは。

答 「開成小学校の水泳授業は継続して南足柄市体育センター温水プールを借用して実施する」との教育委員会の方針決定を受け予算措置を了承した。現在作成中の後期基本計画、期間内には整備をしない方向で進めている。

問 平成36年度まで借用を継続するのか。

答 継続する。

問 当面必要ないと判断されたところだが、施設整備は考えに入っているのか。

答 広域で温水プールを使えるようにした方が効率的であると考えている。

問 学校プールと併用した、町民が利用できる温水プールについて、補助金の調査をしているとのことだが、平成36年度以降、検討するのか。

答 一つの自治体での施設整備は無駄がある。今後、1市5町の首長の決断によって可能になれば話し合っていきたい。



南足柄市体育センター

震度7の地震を想定した準備が必要では

北海道南西部で最大震度7の地震が発生した。災害が一旦発生すると、生命や財産の保護に努め、速やかな町民の安全と生活の復旧、復興に努めることが行政の務めである。緊急事態の発生に対応する、危機管理マネジメントについて、今後は再検討することが望まれる。

問 三保ダムが崩壊することについて議論する考えは持っているか。想定外が発生し、もし崩壊したら、その責任はどこにあるのか考える必要があるのでは。

答 町は、シミュレーションは難しいと考える。三保ダム管理事務所に、たびたび確認をとっている。現時点での耐震設計は、河川管理施設等の構造令に基づいて、仕事も行われているので大丈夫である。

問 山岳部の大規模地すべりや斜面崩壊の発生で酒匂川や三保ダムへの影響はないか。

答 南足柄市、山北町、松田町は県が



菊川 敬人 議員



地震により発生した土砂崩れ

土砂災害警戒区域等を指定しており、土砂災害ハザードマップを作成している。この警戒区域については県により対策工事等が順次行われている。各市町で緊急事態の発生や避難勧告等発令する場合はお互いに連絡を取る体制を整えている。

問 大雨による河川の氾濫や、地震による斜面崩壊が、町より北側、酒匂川の上流で発生したとき、水が堤防を溢水して、道路沿いに町に流れ込むことが懸念される。町が50cmないし1m冠水した時に、町民はどのような行動を取ればいいのか。

答 ハザードマップを作成中である。年明けには、各家庭に配付される。100%完璧なものではないと思う。地域の皆さんの考え方と行政の考え方をマッチして、避難所、避難経路をつくることを考えている。

通学路の見直しは



湯川 洋治 議員

現行の通学路に危険性があり、児童の通学路は、できるだけ交差点を通らない安全な場所を設定すべきと考える。

問 開成南小学校の下校時に発生した事故は防げたのではと考える。特に下島東地区からの通学は交通量の多い箇所を通過しなければならず、再度通学路の見直しを検討されたい。

問 通学路における危険箇所の今後の対応は。

答 教育委員会では子供たちが安心して学校生活が送れるよう『開成町学校地域安全推進委員会』を立ち上げ、安全確保を目的に様々な取り組みを行っている。今回発生した事故については横断歩道上に車両が停車していたことなど特殊な要因が重なって起こった事故と聞いている。事故のあった場所については、地元自治会等からも町担当部署に意見をいただいている。カーブミラーの調整等により通行車両からの死角をなくし警察にも協力をいただき車両の一時停止や安全確認の徹底をお



開成駅南側の交差点

願います。

問 通学路の緊急点検の実施は。

答 学校職員による通学路の点検は、日常的に行っている。また、交通安全プログラムの取り組みとして本年4月から7月に点検を実施した。交通状況をはじめ、社会の変化があった場合は、担当課と連携を図りながら点検を実施することを考えていく。

問 登校時、100人くらい歩道にいまするが開門して敷地内に入れては。

答 以前は各学校で行っていた。最近是不審者侵入等もあつて全国的に不幸な事故が続いたため門扉を閉めることが最近の教育現場の現状である。時間に間に合うよう登校すればよいと子どもたちを通し、あるいは学校通信を通して家庭等に依頼している。

開成町における教育の充実に向けて今後の具体的施策を問う

社会の変動が勢いを増している。テクノロジーの進歩はその勢いを加速させていくことは言うまでもない。次代を担う子どもたちがそのような社会でも活躍できる基礎教育をきちんと提供すること及び生涯学習の充実喫緊の課題であると考えている。

問 英語教育で2020年に向けて、ALT（外国語指導助手）の拡充を、考えているようだが、持続可能な仕組みと考えているか。

答 続けていきたいという思いを強く持っている。

問 英語の専任制の検討がどこまで進んだのか。

答 私どもの力だけでは実現が約束できない部分がある。できるところから体制を整えていく。

問 プログラミングについて教師への体系だった教育、訓練を考えているか。

答 基礎レベルで着実にやっていきたい。

問 教師の働き方改革できちんと調査をしたことがあるのか。



和田 繁雄 議員

答 現在、調査というような、網羅的なものはやっていない。

問 業務量の多さについて教育委員会と現場の教師との認識のギャップがあるのではないか。

答 必要に応じて実態調査など必要なかと思っている。

問 開成町教育基本方針の中で具体的に決まっていることがあるのか。

答 今現在具体的な内容まではまだ計画に落ちてない。

問 開成町教育計画の取り組みで、目標に対する評価の仕組みをどう考えているか。

答 計画の点検評価は不備な点が多い。次期の計画の策定の時には、様々な工夫をしながら、取り組みを進めていく。

問 教育改革の取り組みで幅広く町民の声を聞く仕組みづくりについては。

答 新しい教育振興基本計画の策定に関して、パブリックコメントを実施していく。時期は12月の中旬ぐらいを目処に進めていく。



ALTによる授業の様子